

# Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001 年 10 月に認証・設立され、活動しています。

## ワールド ディスレクシア フォーラム 〈前編〉

在英エッジ会員 館野 智恵子

2010 年 2 月 3 日から 5 日までパリのユネスコでワールド ディスレクシア フォーラムが開かれました。世界を対象としたディスレクシア会議は、これが初めての試みです。

この会議はベルギーのブリュッセルに本部のあるディスレクシア インターナショナルと、ユネスコ、欧州委員会の協賛で開かれました。ユネスコの寺子屋運動にディスレクシア支援教育は欠かせないとユネスコが積極的に協力し、本国からの参加が無い場合は、できるだけユネスコに来ている職員が参加するようにしていました。欧州委員会は、国の経済発展には教育が何より大切であるという視点から、アフリカ、カリブ、太平洋地域からの参加者 60 人に経済的な援助をしました。そのお陰で 125 カ国からの参加があり、活気にあふれた会議になりました。

会議はユネスコの親善大使であるルクセンブル

グ大公夫人のスピーチで始まりました。思うように勉強ができずフラストのたまった子供を持つ親として、ディスレクシアの家族の苦勞が分かるとおっしゃっていました。参加者に、それぞれの異なる部分は脇において、協力しあいましょうと呼びかけられました。

ディスレクシア インターナショナルのパトロンであるリヒテンシュタインの王女さまも、ご家族にディスレクシアがあるそうで、毎日、熱心に発表を聞いていらっしゃいました。

1 日目は欧米の研究者の発表でした。ディスレクシアの脳は他の人たちと違う、という点では、意見が一致しているようですが、ディスレクシアは音韻区別の問題か、視覚の問題かという研究の視点の違いから、対処の違いが生まれます。

視覚の問題に重きをおくオックスフォード大学のスタイン教授は、青色の眼鏡をかけると読みや

赤い表紙が目印!

通常学級でできる支援のノウハウが満載!

たちまち増刷!

### クラスで気になる子の支援 ズバツと解決ファイル

達人と学ぶ! 特別支援教育・教育相談のコツ

阿部利彦 編著 四六判・208頁・定価1,785円

クラスの中にいる様々な「気になる子」。その理解の仕方や支援の方略を、それぞれの分野の「達人」たちがわかりやすく紹介。特別支援教育だけでなく、教育相談・生徒指導などにも活用できる 1 冊。

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-3-7

金子書房 ☎ 03-3941-0111(代) FAX 03-3941-0163  
URL <http://www.kanekoshobo.co.jp>

## 目次

- P1 ワールドディスレクシアフォーラム〈前編〉
- P2 アンケート「障害者の日常・経済活動調査」のねらい
- P3 エッジの 10 年 その 2
- P4 キッズ&ティーンズクラブ、デイキャンプ
- P5 寄付金御礼
- P6 成人ディスレクシア就労支援事業発表会／第 29 回 DX 会報告
- P7 夏の催し
- P8 愛をはこぶ人キャンペーン報告／最近の活動紹介

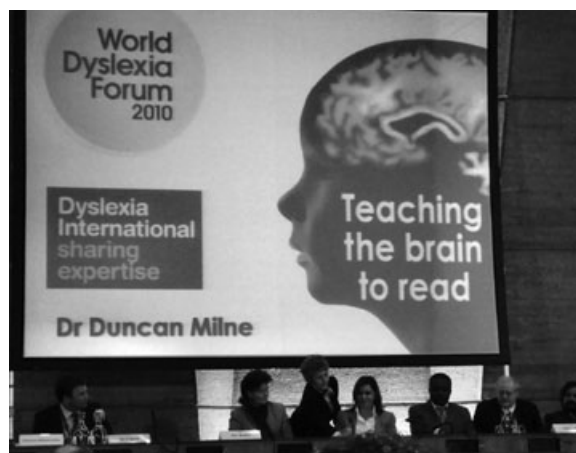
すくなる、魚から摂れるオメガ3が脳の働きに有効だ、と発表しました。

フランスのRUMUS博士は音韻の区別ができないのが一番の問題であり、就学前から音の聞き分けの出来ない子供がいること、早期に音韻体系を教えるのが良い、という意見でした。

オーストラリアのミルン博士は、そのどちらもカバーして視覚、聴覚、触覚すべてを使った Multi Sensory の指導法の重要性を指摘しました。

研究者たちの発表が終わってから、2007年にインドで大ヒットした映画の紹介がありました。Taare Zameen Par (Like stars on the Earth) は8歳のディスレクシアの少年と、授業

時間外に字を書く練習をさせたりしながら少年と心を通わせ自信を取り戻させる美術の先生の物語です。指導法なども参考になる映画です。



## アンケート「障害者の日常・経済活動調査」のねらい

東京大学特任研究員 河村 真千子

東京大学大学院経済学研究科 READ（障害と経済の研究）では、アンケート調査を実施し、EDGE 会員様にもご協力を賜りました。誠に感謝申し上げます。ご回答いただいたアンケートは、時間をかけて分析をおこなって参りますが、真摯に向き合ってくださいました方々との交流や情報からの学びを交え、考えを述べたいと思います。

### “障害名にこだわった理解をすると、人物像を間違ふ”

「文字の読み書きや、計算が苦手。物忘れが激しい。」

「計算機を毎日持ち歩きましょうか！ 定期券を忘れるのなら、SUICAを2枚用意だね！」

実際には、生活の細部に問題が発生し、最終的には人間関係という側面にあらわれてくる。コミュニケーションを専門分野とする筆者は、「人はひとりでは生きられない。どんな人間でも他者の支えを必要として生きている。」という基本を理解している。ゆえに、自立とは自分でできるということではなく、互いに支えあう関係性のあ

り方であるということ、意識せずにはいられなかった。EDGE ワークショップに参加をし、奇抜で独創的なアイデアを持って物事を発想する方々に驚いた。自信がもてない自分からの解放といっても良いくらい、生き活きとしている姿に感銘を受けた。世の中には、「読み書きができないと、考えることができない」と言う人も多いであろう。しかし、読み書きを苦手とする the brain と識字社会との両世界を生きている産物として、発想力のある the brain が発達、考えが湧いてくるのではなかろうか。

### “未来への投資”

障害をもつことは大変であるから福祉の充実を、という考えの重要性は理解している。そうした視点においては、「社会参加をしている障害者」を考えるうえで重要であろう。一方で、少し角度を変えて、未来への投資という視点に立つことはできないだろうか。社会参加の可能性が広がることにより、「障害のある人も参加している社会」といううねりをつくることはできないだろうか。

## エッジの10年 その2

藤堂 栄子

### NPOハウス入居、 NPOと行政の協働、 イギリスモデルの勉強

#### 2003年から2007年

NPOハウスにおける生活は刺激的でした。校舎は古いのですが、内側のソフト面は反対に斬新で先駆的でした。まずは運営自体が行政とNPOの協働でした。区は大家さんで六本木の交差点からすぐのところにあるにしては破格の家賃でした。家具はそのまま学校の机や椅子を使い、引っ越す大企業からの寄付のロッカーなども入居者全員が嬉々として4階まで協力して運びました。環境、子ども、高齢者、障害者、国際協力から中間支援団体まで正に今はやりのダイバーシティ（多様性）に富んだ仲間がそろいました。印刷機や会議室、応接室、交流サロンなどは全体で管理します。花瓶を借りたり、カメラを貸したり、カンボジアの学校で断られた文具をもらって使ったりと貨幣価値だけでは測れない何か起きていました。日常だけではなく違うNPOとの協働で祭を開催したり、防災マップづくりをしたりと有意義なときを過ごしました。また、全国LD親の会と発足したてのJDDネットの事務所も同居しました。

しかし、せつかくの先進的な目論見も、耐震性の問題や何干と港区に事務所を置くNPOの中からどうしてこの30団体だけがずっといるのかというような議論があり、いろいろな交渉の末このNPOハウスも5年で閉鎖されることとなりました。港区内の事務所を探し、区役所にも近い浜松町にこれまた古いけれど居心地の良い事務所に移り現在に至ります。

一方、ディスレクシアに関しては日本ではLD

という概念は広がってきているものの学習の基本となる読み書きの困難に特化して活動しているところはほとんどありませんでした。まずは息子が留学していてすでにいろいろなシステムや制度が整い実践されているイギリスに範をとるべく、英国を数回訪問してアセスメント、教育、雇用などについて学びました。また、英国のイアン・スマイズ博士を招聘して日本で出来るディスレクシア支援について基本的な考え方を学びました。一連の訪英と専門家の招聘を通してモデルとして出来てきたのがLSA（学習支援員）制度です。英国ではディスレクシアに特化していますが、日本ではもっと広くいわゆる学習に困難さを見せる児童生徒へのピラミッド型の支援モデルを考えました。まずは啓発隊（保護者や本人たちの話し、または疑似体験）、支援（通常学級内での支援）、上級支援員、そして大学院レベルの指導員などをイメージしていました。

#### 港区行政とNPOとの協働

このような状況を背景として、エッジでは港区のパートナーズ基金を活用して港区における特別支援教育の中でも通常学級内における学習支援員の制度を模索していきます。

－次号へ続く－





# キッズ&ティーンズクラブ デイキャンプ

## ボディーパーカッション (2010年3月13日開催)

NPO ボディーパーカッション協会代表 山田 俊之

### EDGEの活動に参加して

今回のEDGEの活動の代表である藤堂さんとの出会いは、私がNHK障害福祉賞を受賞し、その懇親の席でお会いしたのがきっかけでした。

当初、EDGEの活動の中でボディーパーカッションワークショップをさせていただくことと、LD(学習障害)とディスレクシアがどのような関連があるのか考えました。LDの中でも中心的な症状である読みと書きに困難さがある症状とリズム活動。共通するキーワードはコミュニケーション能力ではないかと思えます。

コミュニケーション能力とは何か、読みと書きに困難があり言葉や文字で意味を伝えること以外に、顔の表情、声の調子、身振り手振りなどで、相手に気持ちを伝達する力が重要ではないかと考えました。

実際にボディーパーカッションワークショップを始めると、予想以上に7人の小中学生を中心に参加者の方々が自分の身体を使って、ボディーパーカッションで楽しんでくれました。

リズム遊びで手拍子、お腹を叩く、膝を打つ、足踏み、ジャンプ、お尻を叩くなど身体の様々な所を叩いて音や動作で表現。その後、リズムアンサンブル曲「手拍子の花束」でグループに分かれ仲間とリ

ズムで同調し、一体感を感じ、身体表現を上げることができました。

特に、各グループに分かれてアドリブ(即興的な表現パフォーマンス)を取り入れ、仲間の前で表現発表して大変楽しそうに演じる場面では各グループ想像をはるかに超えたパフォーマンスが見られました。今回のワークショップをきっかけに、参加してくれた7人の小中学生のコミュニケーション能力を高めることにつながってくればと考えています。

EDGEの皆様にはボディーパーカッションを取り入れて頂いたことに心から感謝いたします。またこのような機会がありましたら是非お声掛けください。喜んで参加させていただきます。

〈協賛：東京南ロータリークラブ〉



## 絵画ワークショップ報告 (2010年3月21日開催)

柴田 章弘

港区地域活動室で、マッケンジー・ソープさんと子どもたちのワークショップが行われました。当初は子どもたちのみで行う予定でしたが、興味津々の大人たちも周囲にいました。単に見物するだけではかわいそうなので、大人にもクレヨンと画用紙が配られ、ワークショップに参加することになりました。ソープさんの指導で、3歳の子どもに戻ったつもりで「ハート」の絵を描きました。20分でも絵に集中すると時間の経過は早いものです。絵に取り組む真剣な眼差しは大人と子どもの壁を越えたように感じられました。静かな教室に、クレヨンの音だけが響きました。ソープさんが子どもたちに近づき、短い一言を発すると、彼らの手が生き活きと動きました。さすがにソープさんの魔力は不思議でした。大人も、

この数十分間、童心に戻り、真剣に絵に取り組むことができました。最後に参加者が自分の描いた「ハート」の絵をレンズに向け記念撮影するとき、満足の笑顔があふれました。

〈協賛：東京南ロータリークラブ〉



## イートン校聖歌隊コンサート (2010年4月2日開催)

藤堂 栄子

皇太子様ご臨席の元、池袋にある東京芸術劇場にて英国名門伝統校であるイートン校の青年たち30名が来日、聖歌隊のコンサートが行なわれました。お琴との合奏も緊張感あふれ、パイプオルガンも高らかに鳴り響き荘厳な中にも爽やかな歌声が聞けました。赤とんぼとかサクラなど日本の歌も情感たっぷりに琴の音と共鳴していました。お忍びのという意味のインコグニートというコーナーでは選抜された6名の精鋭がアカペラでビートルズナンバーなどをちょっと生意気に歌いました。イートン校の制服である黒の燕尾服の中にそれぞれ趣向を凝らした色とりどりのチョッキが際立っていました。

裏話を一つ。移動のときは各自私服で相当カジュアルな格好をしています。点呼を取るときに、大体半径3メートルくらいにほとんどの子が集まると先生が「1」というと、そこから「2」「3」…「23」…そして順番になっても声がないと「あれ？ ジョンがまだだ。」ということになります。日本では整列をさせるのに時間がかかるのにこの方法だと手間隙からずい良いな、と思いました。

イートン校の聖歌隊のコンサートのご協力をいただくのは今回で2回目です。フォワイエに用意したブースの募金も含め25万円近くのご寄付を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

## 寄付金御礼

たくさんの応援ありがとうございます

### 日本フィランソロピー協会

寄付金はキッズ&ティーンズクラブの夏の「寺子屋」に使われます

### キャノン

電卓を30台、寄進いただきました：キッズ&ティーンズクラブの授業で使われます

### 東京南ロータリークラブ

寄付金は、キッズ&ティーンズクラブ、デイキャンプの開催に使われます

### イートン校聖歌隊コンサート

コンサートの券を300枚いただきました



### 寄贈図書・冊子

「怠けてなんかない。セカンドシーズン」  
—成人ディスレクシアのノンフィクション—  
品川 裕香 著／岩崎書店

「障がいのある子どもたちのための携帯  
電話を利用した学習支援マニュアル」  
東京大学先端科学技術研究センター・  
人間支援工学分野／  
ソフトバンクモバイル株式会社

「発達障がいのある人の雇用のための  
ガイドブック」  
特定非営利活動法人障がい者就業・  
雇用支援センター

「発達障害の子どもの視知覚認知問題への  
対処法」 親と専門家のためのガイド  
リサ・A・カーツ 著／川端 秀仁 監訳／  
泉 流星 訳／中村 尚広 協力／  
東京書籍

## 成人ディスレクシア就労支援事業発表会

柴田 章弘

発表会は2010年3月28日(日)、地域活動室で行われた。前半は報告、後半は当事者5人が6回のワークショップを振り返り、回顧していく形で進められた。自分を知り、自信をつけ、向いている仕事を探す。この一連の流れの基礎が確立してきた。特にこの就労事業が行われている間に就職を決めた二人がディスレクシアを採用側に告知して、入社したことはうれしい。この一年の間に当事者が成長して、堂々と前向きになったことが明確になってきた。

パソコン等の支援機器は支援にはなるが、決定的なものではない。当事者、それぞれの困り感がそれぞれ違うからだ。職場に入っても、正しく自分の得手、不得手を説明し、他の人々と上手に共存していくことが大切だ。当事者と会場に訪れたゲストとのやり取りにしばしば笑いとため息があふれ、たいへん和やかなムードで会は進行した。就労の際に、堂々と「自分たちの能力を発揮できるように周囲に啓発しよう」と、決意表明して終

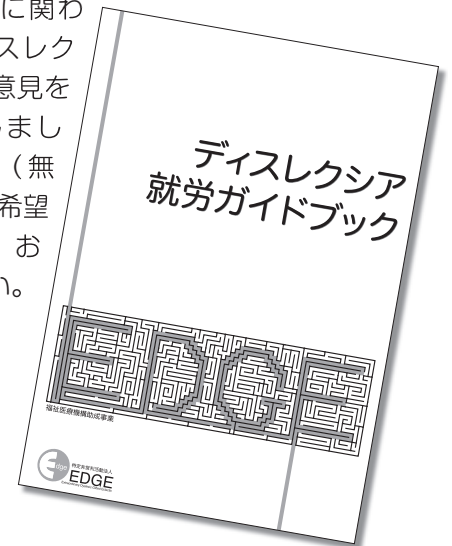
えた。WAMのワークショップと発表会の模様はインターネットラジオで放送されている。

〈[http://blog.livedoor.jp/npo\\_edge/archives/cat\\_50033715.html](http://blog.livedoor.jp/npo_edge/archives/cat_50033715.html)〉

※この事業は独立行政法人福祉医療機構の助成金で実施しました

※「ディスレクシアの成人の就労ガイドブック」が完成しました。

《自分を知る》、《自分を表現する》、《就職活動》、《企業の見方》、《就職に関する制度》等をディスレクシアの成人たちの意見を反映させ、作成しました。全96ページ(無料にて配布中)、ご希望の方は事務局まで、お問い合わせください。



## 第29回DX会報告

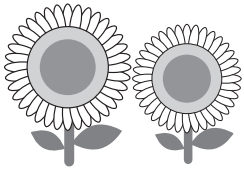
柴田 章弘

2010年4月11日(日)、第29回DX会は15人(男10名、女5名)の出席で、地域活動室で行われました。クレヨンで文字、絵、イラスト等を使って、「春になると食べたくなるもの、又は飲みたくなるもの」を描き、自己紹介をしていきました。15分ぐらいで、それぞれ個性的な絵が出来上がりました。自分の作品を説明するときは童心に返った良い笑顔でした。終わる頃になると気分がほぐれ、リラックスしてきました。

ここで、ワークショップに入りました。今回は二組にわかれ、「自分が作りたい会社」を提案し、「発表」するゲームを行いました。二面のホワイトボードに「赤チーム」、「青チーム」の参加

者が自由に発した意見を絵で描いていきます。DX会の書記は字ではなく、絵で記録していきます。青チームから「明かりを売る会社」「人工ホテルを売る会社」「イカ焼きを売る会社」、アイデアが出てきました。赤チームから「どんな人でも働ける会社」「眠っている間に見た夢を利用する会社」「給与が現金ではなく物で支給する会社」などの意見が出てきました。今回は両チームのアイデアを出した人が自分で解説を加えました。プレゼンテーションは惚れ惚れするぐらいまくなりました。今回も皆さん「元気」が出たかな。次のワークショップが楽しみになってきました。





# 夏の催し

今年の夏はデイキャンプと  
テラコヤでバッチリ!

## デイキャンプ

### 「素敵な自分だけの小屋作り」と「おばけ特殊メイクに挑戦」

成人ディスレクシアの人がリーダー！こんな風に工夫して大人になれる！

2010年8月3日(火)

「マイ・キャバノン」素敵な自分だけの小屋作り

講師 藤堂 高直  
(建築家)

時間 午後1時～4時

定員 8～10名

費用 1人1,000円

場所 港区地域活動室



2010年8月5日(木)

おばけ特殊メイクに挑戦！

講師 砂長 美ん  
(ヘアメイクアーティスト+料理研究家+マジシャン)

時間 午前10時～午後3時

定員 10～12名

費用 1人1,000円

場所 港区地域活動室



【お申込】個別支援室へ7月26日(月)までにお申込み下さい。

〈東京南ロータリークラブ協賛〉

## テラコヤ

### 「夏休みの宿題相談会」

2010年7月27日(火)と29日(木)

「一学期に困ったこと」「夏休みの自由研究どうしよう」  
「作文手伝って」「英語が大変」「タッチタイピングに挑戦」  
「マインドマップを使ってみたい」  
「計算もっと楽にしたい」 などなど  
夏休みの宿題や2学期に備えているいろいろな先生が応えます。

時間 午前10時半～12時／午後1時～2時半／  
午後3時～4時半

場所 港区地域活動室

定員 各回12名まで、一人何セッションでも受けられます

費用 1セッション 1,000円

【お申込】個別支援室へ7月26日(月)までにお申込み下さい。

〈日本フィランソロピー協会協賛〉

## 特別支援教育支援員講座

東京都港区の通常学級ですっかり定着して、効果をあげている学習支援員制度。あなたの地域で支援してみませんか？

### ●実施時期 ▶▶▶

2010年8月23日(月)～8月27日(金)

### ●実施場所 ▶▶▶

東京都港区浜松町 2-3-20  
港区立子ども家庭支援センター 2階 地域活動室

### ●受講生の条件 ▶▶▶

- (1)発達障害の支援及びLSAに関心を持っていること
- (2)上記講座に全て出席できること
- (3)高卒程度以上の学力を有し、健康であること

### ●定員 ▶▶▶ 30人

### ●費用 ▶▶▶ 30,000円

(港区LSA養成講座使用のテキスト付き)

### ●内容 ▶▶▶

発達障害を取り巻く環境、発達障害とは、早期発見の手引き、LDとは、LD疑似体験、作業療法士、実践的指導法、ソーシャル・スキル・トレーニング、発達障害の理解と心の健康支援、当事者の声、LSA制度の仕組み、LSA体験談など

### ●申込 ▶▶▶

個別支援室へ8月6日(金)までに、①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤職業 ⑥応募動機(400字以上800字以内)をご連絡下さい。  
定員を超えた場合には書類審査の上、受講者に受講案内を8月12日(木)までに送付します。

連絡先

### 個別支援室

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-3-20  
港区子ども家庭支援センター 2階  
電話&ファックス 03-5401-1199  
minatolsa@yahoo.co.jp

# 愛をはこぶ人キャンペーン

愛をはこぶ人は、評価など気にせず、真っ直ぐな気持ちを両手に抱えて、ただひたすらにそして時に大胆に、そっと愛を届けてくれる……今回お会いしたマッケンジー・ソープさんはそんな人柄の方でした。ディスレクシア（読み書きに困難をもつLD）で苦しみながらも、家族や友人に支えられ、たぐいまれな絵画の才能を開花させた経験から、「子どもたちが自らの力で運命を切り開くことができるように」との願いを込め、『希望・愛・喜び』をテーマに世界中の子どもたちに愛をはこぶキャンペーンを推進しています。読み書きが苦手というサインの中に「未知なる可能性がある」というヒントが隠れているとしたら、私たちはどれだけの才能を見逃していることでしょうか。それは磨かれていないダイヤモンドの原石に秘められた、何カラットもの輝きに気づいていないのと同じです。まだ出会っていない地球のどこかにいる、自らの存在を主張せず沈黙を守っているダイヤモンドの原石の子どもたちが、本当の輝きを手に入

れ眩しい笑顔でいっぱいになるように、ほっかほかの愛をはこぶ人になりたいと、そっと心に願って終わった今回のキャンペーンでした。

（文責：金村 悦江）

## 2011年版マッケンジー・ソープ氏の カレンダーが手に入る!

早く手に入れて長く使いましょう。  
今年も可愛い絵柄がそろいました。

- 一部 1,200 円、送料 300 円
  - 10 部以上お申込から割引があります。
  - 50 部から特別料金にてお名入れをいたします。
- お問合せ・お申込：dxheart@npo-edge.jp  
fax 03-6240-0671 柴田まで

### マッケンジー・ソープ ～愛をはこぶカレンダー～

商品番号：TD-30751

608×425mm  
7枚



〒116-0012 東京都荒川区東尾久 8-32-1 TEL 03 (6859) 1906  
株式会社トーダン 販売本部 FAX 03 (6859) 1916

## Dyslexiaの啓発とサポートを目的にした NPO法人EDGEを応援しています。

東京蒲田ロータリークラブ [www.tokyo-kamata-rotary.gr.jp](http://www.tokyo-kamata-rotary.gr.jp)

### 最近の活動紹介

- 2月28日 第9回総会  
3月6日 FU研修「港区LSA制度について」  
港区教育委員会指導室主事 瀧島啓司  
3月13日 WS「ボディパーカッション」  
(ホテルオークラ東京他) 山田俊之  
3月19～31日 ソープ氏絵画展  
3月20～21日 ソープ氏トークショー／ワークショップ  
3月28日 WAM「成人ディスレクシア就労事業」  
発表会  
3月30日 FU研修「目標設定の立て方」  
港区個別支援室相談員 上田恭子  
4月2日 イートン校チャリティコンサート  
4月4日 JDDネットフォーラム  
4月11日 第29回DX会  
6月6日 第30回DX会  
6月27日 スノーリング博士講演

### 今後の予定

- 7月4日 WAM第一回ワークショップ  
7月27、29日 K&Tテラコヤ

- 8月1日 第31回DX会  
8月3、5日 K&Tデイキャンプ  
8月21～22日 第2、3回WAMワークショップ(夏合宿)  
8月23～27日 特別支援教育支援員講座  
9月5日 臨時総会(予定)  
10月3日 第32回DX会(第4回WAMワークショップ)  
10月9～11日 日本LD学会(愛知県立大学)

### Report from the EDGE - 第23号 -

2010年6月25日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子

東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F

Tel. 03-6240-0670・0672

Fax. 03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE 事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

[http://blog.livedoor.jp/npo\\_edge/](http://blog.livedoor.jp/npo_edge/)

E-mail: [edgewebinfo@npo-edge.jp](mailto:edgewebinfo@npo-edge.jp)